

Together, we make good sense.



2025年3月期 中間期 決算説明会資料

**未来のNOBLEを見据えて
抵抗器のNOBLEから新生NOBLEへの深化と進化**

2024年12月6日

エグゼクティブ・サマリー

◆ 事業環境

- 国際的な情勢不安の長期化による資材価格の高止まりに加えて物価上昇は継続しており、為替の動向や海外景気の下振れによるリスクなど、楽観視できない状況が継続している
- 生活家電市場では市場の在庫調整が進み回復の兆しが見えてきたが、産業機器市場では在庫調整が遅れている

◆ 25/3期中間期業績実績と通期業績予想

25/3期中間期実績 売上高79億68百万円、営業利益8億76百万円

- 中間期の自動車電装向けの売上は計画を上回り推移し、下期も堅調の見通し
- AV機器向けは、市場環境が良く受注が計画を上回っており好調に推移
- 売上増加による工場稼働率の向上や、生産効率の向上効果が出て営業利益は当初予想を上回る

25/3通期予想 売上高165億円、営業利益14億円を計画

- 25/3期下期も継続して自動化・省人化をはじめ、新製品投入を積極的に進めるが、コスト上昇基調の継続や為替変動等先行きの見通しが不確実なため、通期の業績予想は修正せず

◆ 中期経営計画の進捗と取り組み

- 中期経営計画最終年度に向けて、計画進捗は順調に推移
- 総還元性向を高めており、PBRも直近で上昇してきている
- 企業価値向上を目的に、様々な取り組みを行う

- 弊社の特長と強み
- 25/3期 中間期業績実績と通期業績予想
- 中期経営計画の進捗と取り組み

弊社の特長と強み

弊社の特長と強み① — 一貫生産

帝通の強み

幅広いニーズに応えるべく、独自のフィルム印刷と成型・プレス加工という2つの技術をコアに、設計・開発・アセンブリまで自社で一貫生産対応を基本に様々なオーダーにこたえられることが私たちの強みです。



製品設計

お客様のご要望に合わせて製品設計を行います。

金型設計

金型の設計・加工を自社で行います。

スクリーン印刷

フィルム・PCB基板への印刷を自社で行います。

加飾・成型・プレス加工

加飾およびモールド成型、プレス加工を自社で行います。

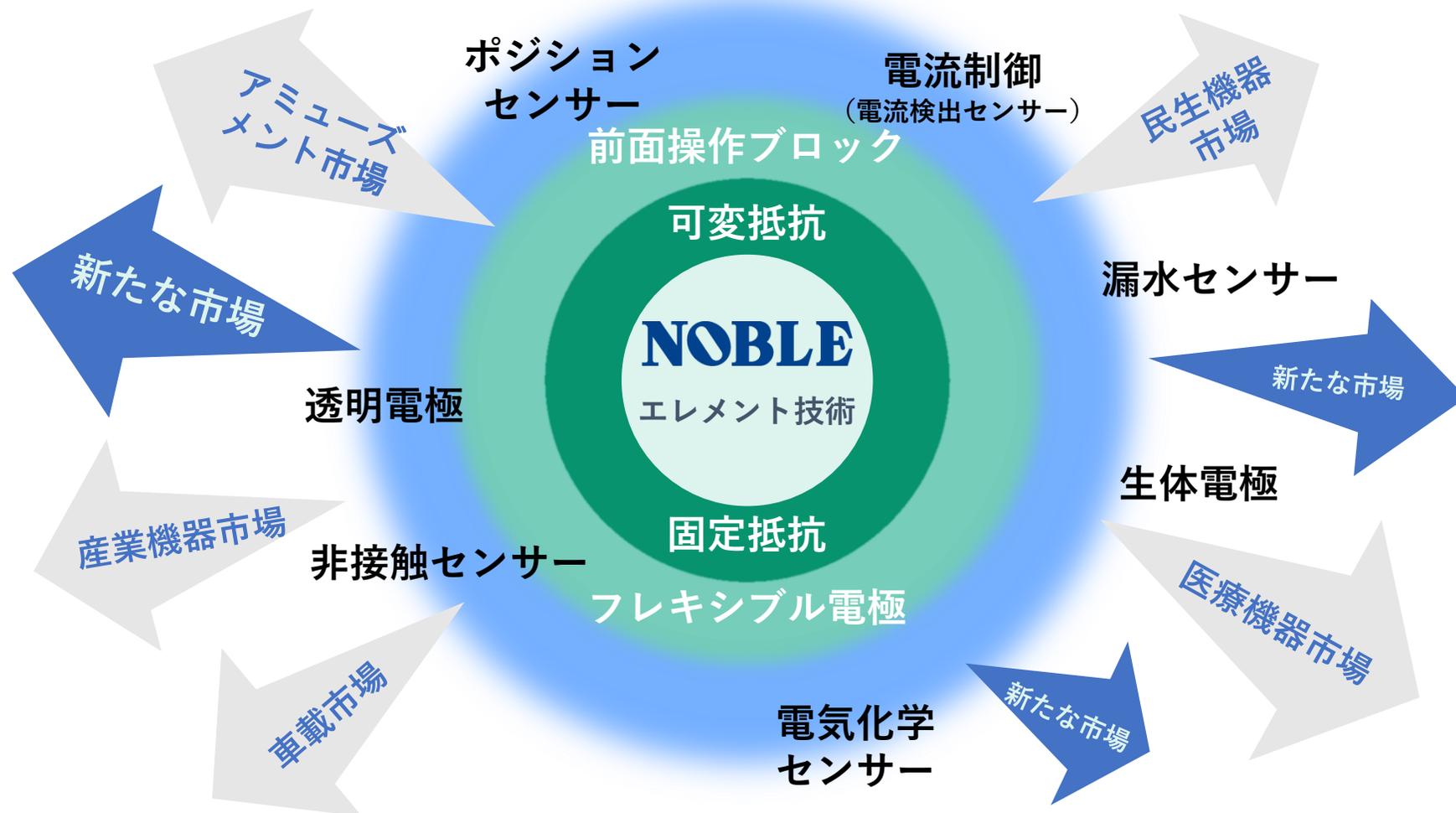
組立加工

部品製作・生産設備構築をはじめ、組立加工を自社で行います。

弊社の特長と強み② – エレメント技術からの市場展開

エレメント技術で 既存市場から 新市場への展開

エレメント技術をベースに
80年の歴史を育む
NOBLEのセンサーで
社会に貢献し続けます。



弊社の特長と強み③ – コア技術を活かした製品展開

ICB製品 (Integrated Control Block)



カスタムブランド

前面操作ブロックとして生産するICB製品は、当社独自のカスタムブランドです。NOBLE-FPCを中心とした集積モジュールは、各種マーケットからの独自要求に対応しております。



自動車



AV機器



ゲーム・
ホビー機器



家電機器



医療・
ヘルスケア



事務機器・
産業機器

ディスクリート製品



汎用電子部品



可変抵抗器



センサ (抵抗式)



半固定抵抗器



エンコーダ



スイッチ

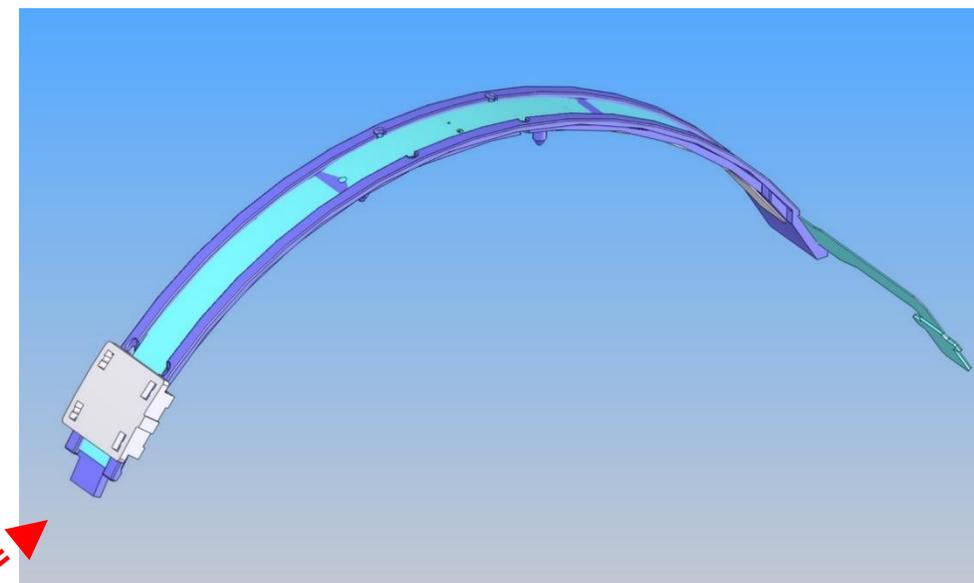
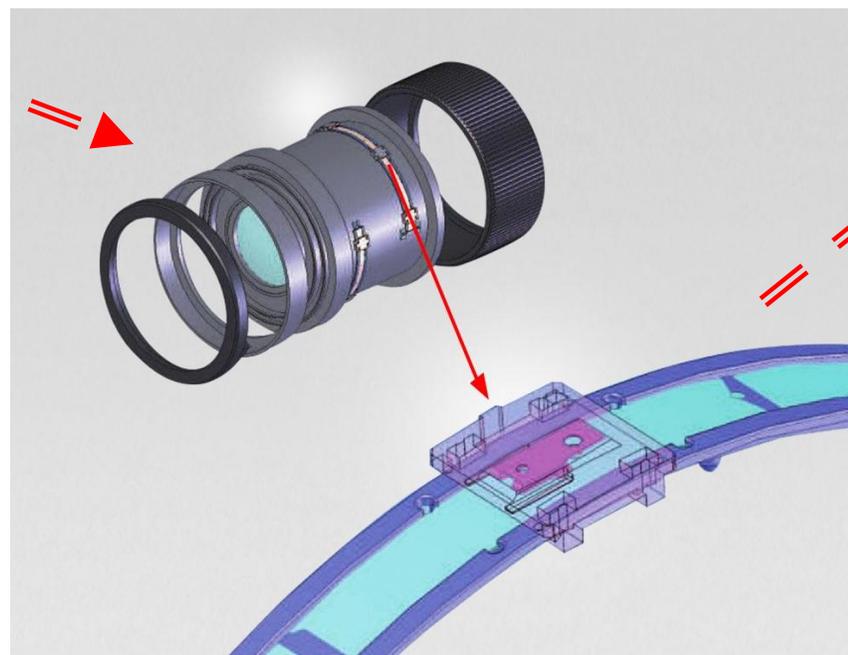


固定抵抗器



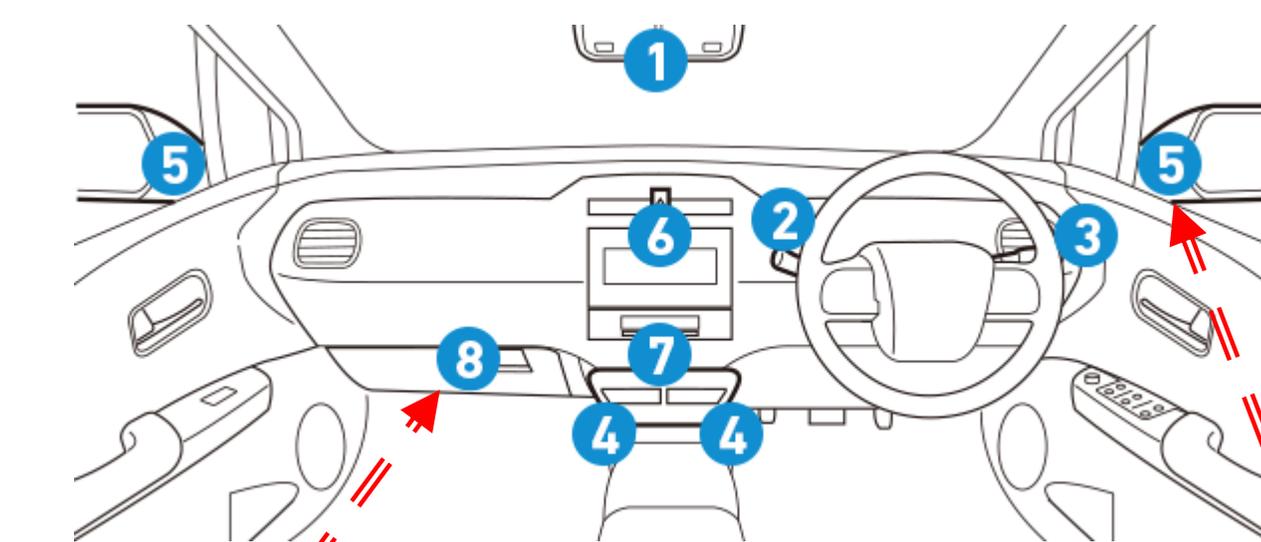
プラグ

弊社の特長と強み③- 1 - 製品展開例 - 曲面センサ



- ◆ DSCや一眼レフのレンズ部に搭載
- ◆ フォーカス、ズーム、絞りなど、ユーザーの動作(回転)をダイレクトにセンシングしてカメラにフィードバックする位置検出センサ

弊社の特長と強み③-2 製品展開例 - ドアミラー、HVAC用センサー

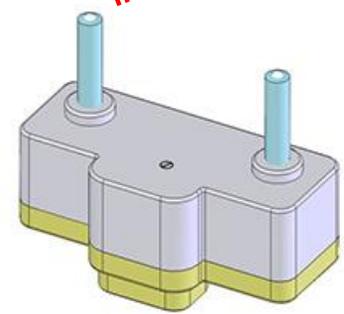


- ① マップランプ スイッチ
- ② 間欠ワイパー調整 可変抵抗器
- ③ ライトレベリング コントロールユニット
- ④ 空調シート コントロールユニット
- ⑤ ドアミラー 位置センサユニット
- ⑥ ハザードランプ スイッチ
- ⑦ エアコン 操作部ユニット
- ⑧ HVACアクチュエータ センサ基板



HVACアクチュエータセンサ基板
(Heating, Ventilation & Air Conditioning)

- 車内空調システムに使用されるエアミックスダンパーで、いわゆるHVACの位置検出センサ
- 内/外気、温冷風ミックス等1台あたり複数使用されている



ドアミラー位置センサユニット

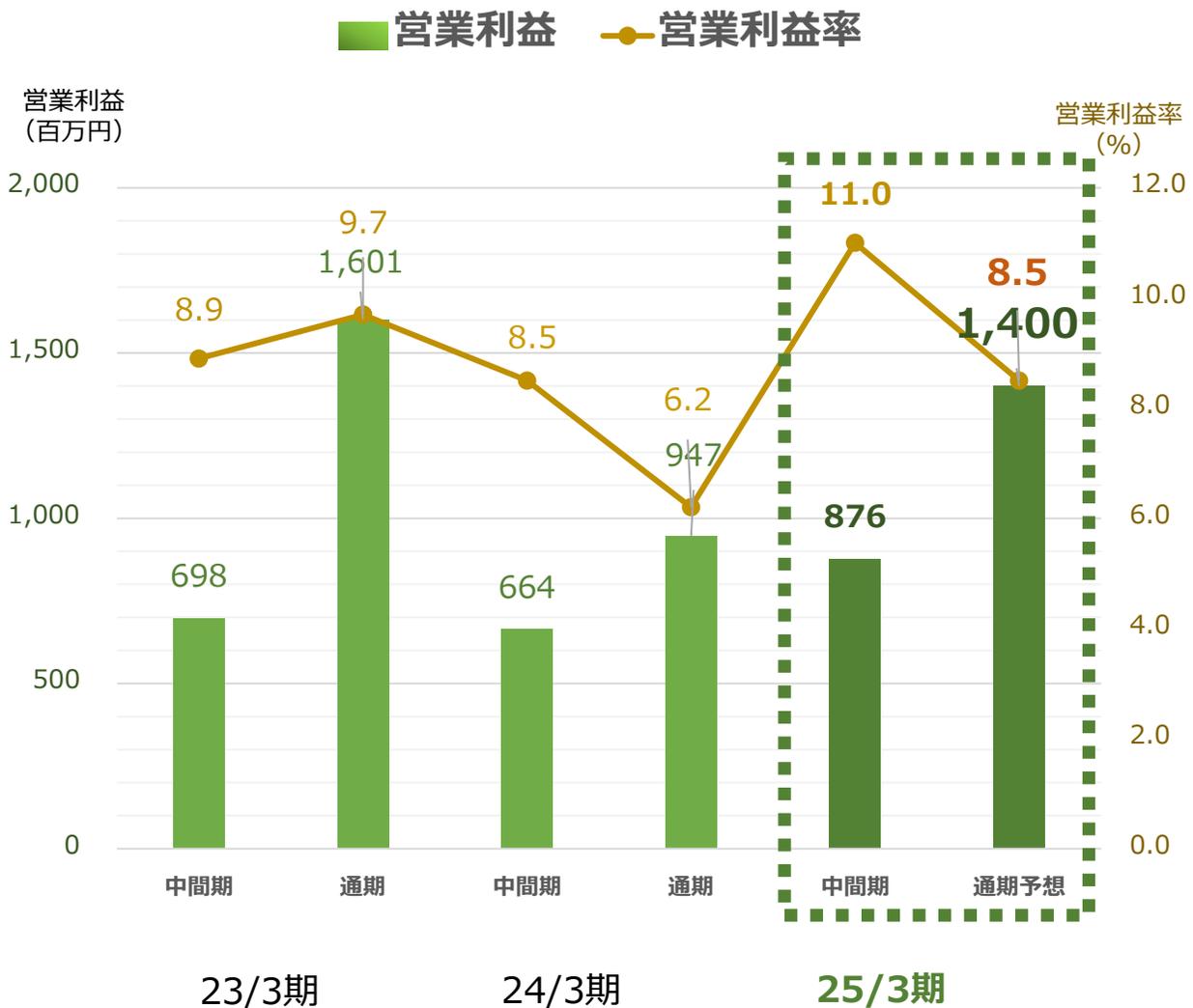
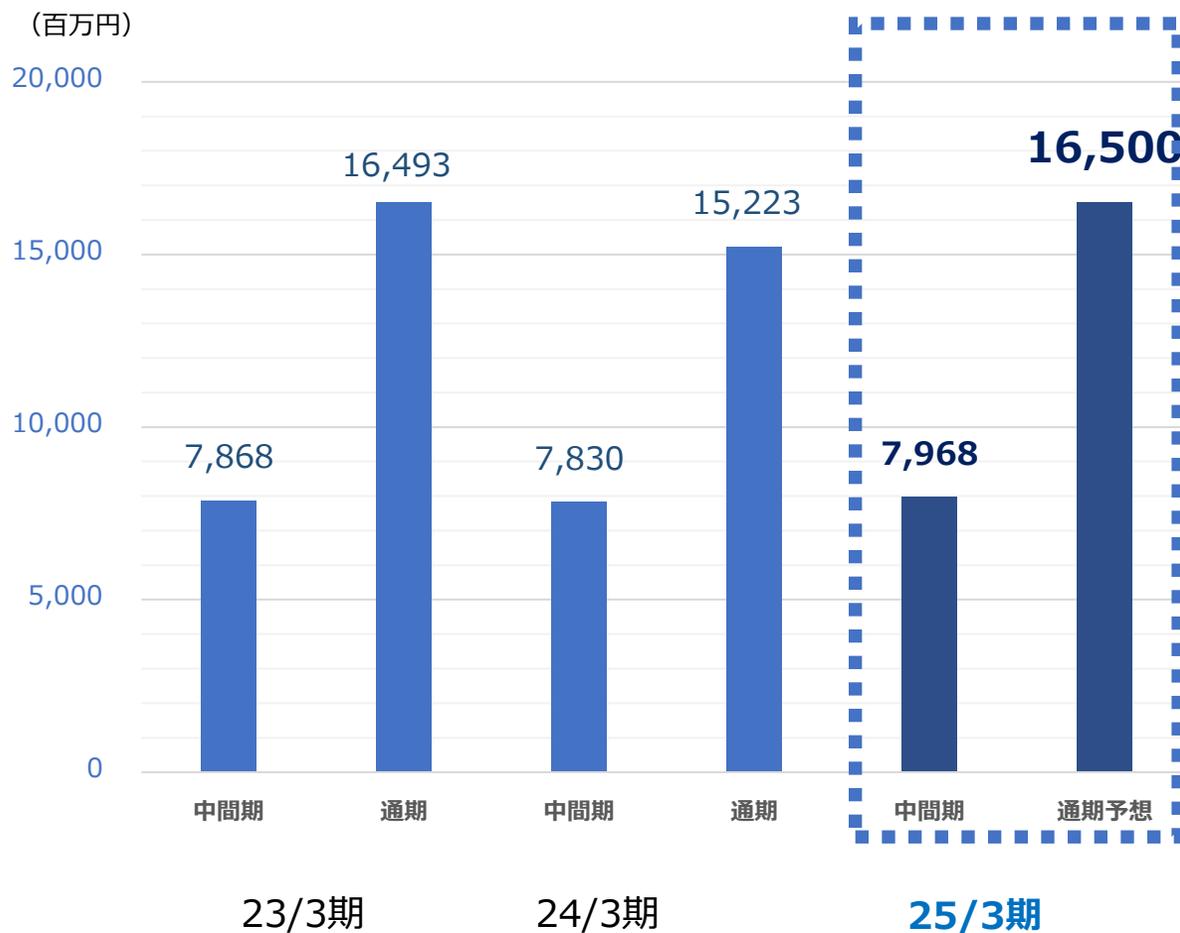
- ドアミラーの上下の動きと左右の動きをそれぞれ1個、合計2個のセンサで対応するセンサユニットを提供
- ドアミラーの位置がセンシングできるため、運転手別のミラーの位置を設定することや、後退時に後方が見やすいようにミラーの位置を自動で変えるなどの機能に役立っている

25/3期 中間期業績実績と通期業績予想

- ▶ 25/3期 中間期業績実績と通期業績予想比較
- ▶ 25/3期 中間期の利益増減要因分析（前年同期比較）
- ▶ 25/3期 通期の利益増減要因予想（通期前年比較）
- ▶ 電子部品セグメントにおける市場別売上高 25/3期 中間期と25/3期 通期予想
- ▶ 製品別売上高の25/3期 中間期実績と25/3期 通期予想

25/3期 中間期業績実績と通期業績予想比較

売上高

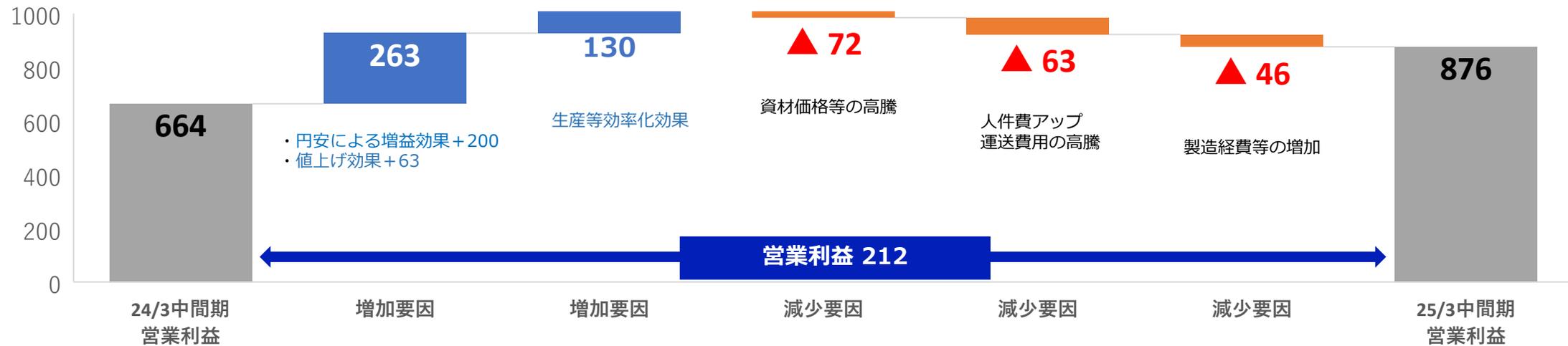


25/3期 中間期の利益増減要因分析（前年同期比較）

(百万円)	2024年3月期 中間期		2025年3月期 中間期		前年同期比	
	金額	対売上高比	金額	対売上高比	金額	対売上高比
売上高	7,830		7,968		138	101.8%
営業利益	664	8.5%	876	11.0%	212	131.9%
営業外損益	517	6.6%	23	0.3%	△494	4.4%
（うち為替差損(△)益）	(343)	-	(△145)	-	(△488)	-
経常利益	1,182	15.1%	899	11.3%	△283	76.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	909	11.6%	699	8.8%	△210	76.9%

単位：百万円

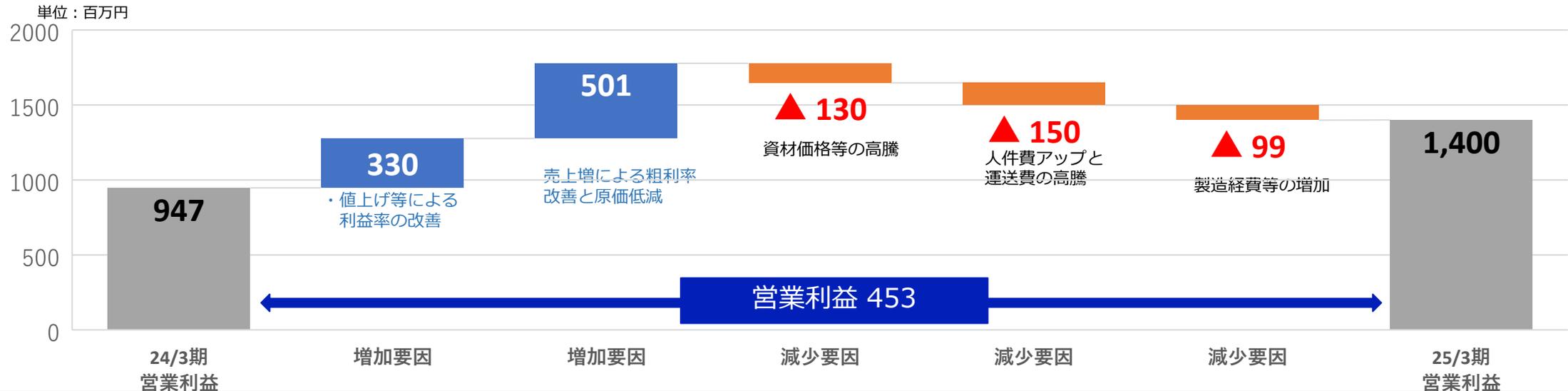
連結営業利益増減要因（中間期前年比較）



25/3期 通期の利益増減要因予想（通期前年比較）

(百万円)	24/3期			25/3期			前年同期比		
	上期	下期	通期	上期	下期見込	通期見込	上期	下期	通期
売上高	7,830	7,393	15,223	7,968	8,532	16,500	138	1,139	1,277
営業利益	664	283	947	876	524	1,400	212	241	453
営業外損益	517	94	611	23	177	200	△495	83	△411
（うち為替差益）	(343)	(47)	(391)	(△145)	(145)	0	(198)	(98)	(391)
経常利益	1,182	377	1,559	899	701	1,600	△283	324	41
親会社株主に帰属する当期純利益	909	453	1,362	699	801	1,500	△210	348	138

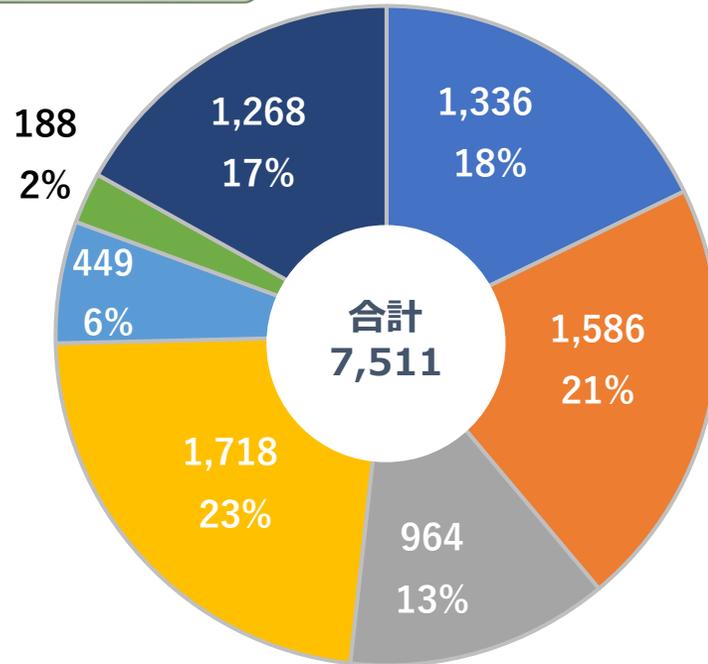
連結営業利益増減要因（通期前年比較）



電子部品セグメントにおける市場別売上高 – 中間期比較

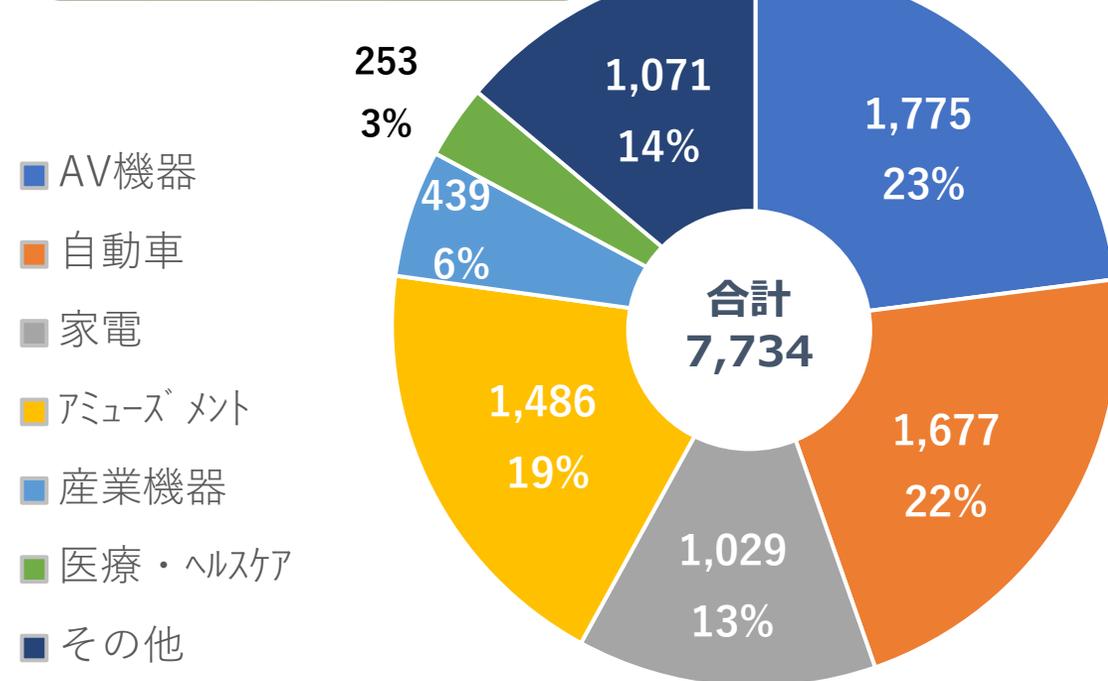
24/3期中間期

(単位：百万円)



25/3期中間期

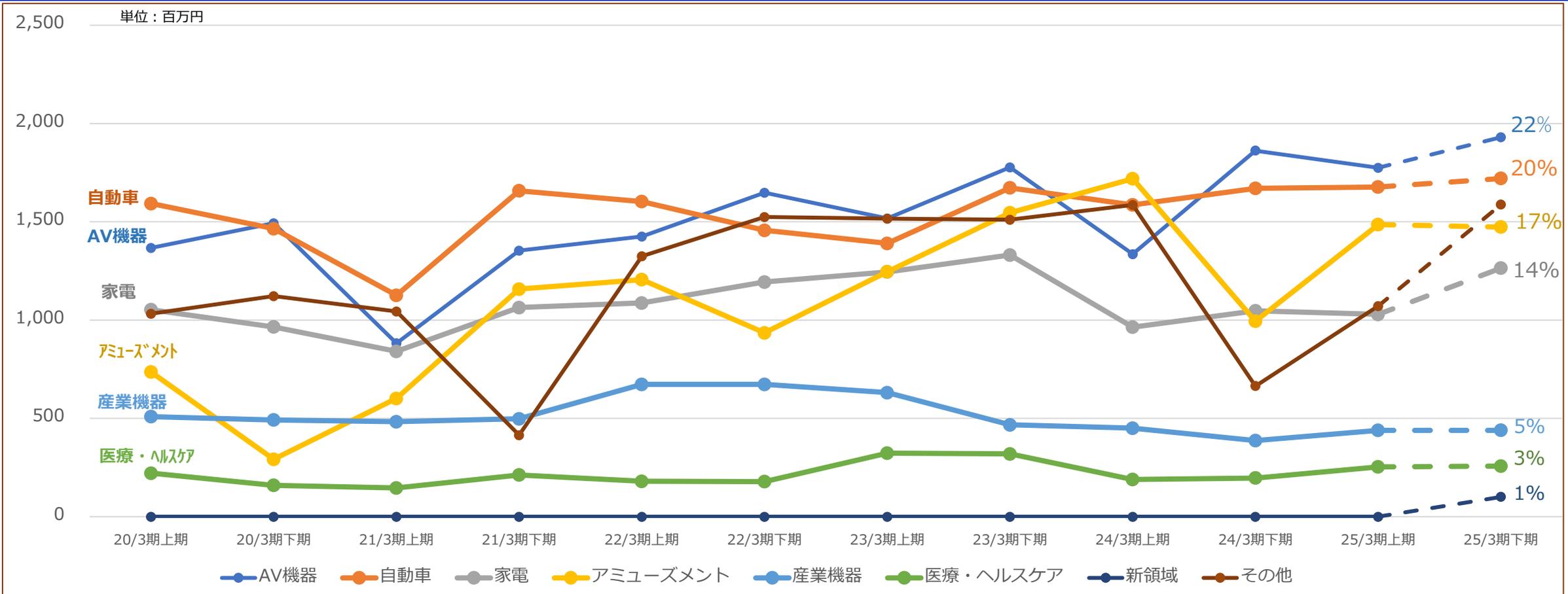
(単位：百万円)



【各市場へ弊社製品を採用】

AV機器市場や家電市場においては、主に国内主要メーカーとの取引をしております。自動車市場は、ティア1を中心に取引を行っており、他市場においても、EMSメーカーをはじめ、国内外を問わず、様々なお取引様がたに、弊社製品をご採用いただいております。

電子部品セグメントにおける市場別売上高 — 半期毎推移

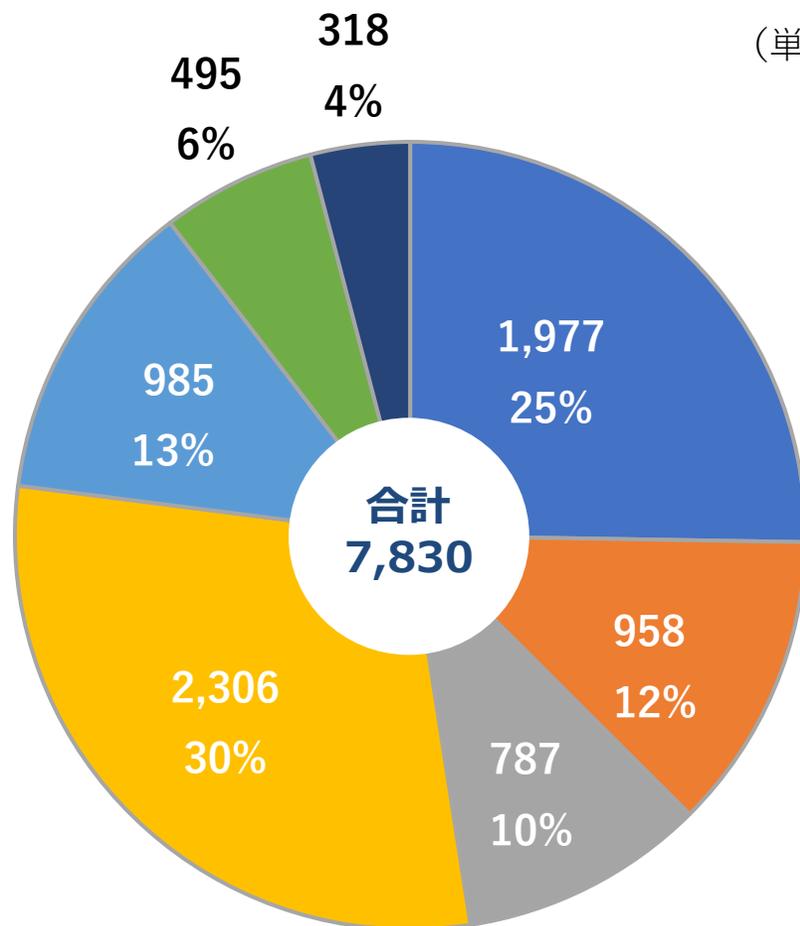


➤ 自動車、AV機器：市場需要に牽引され堅調	⇒	24/3下期	⇒	25/3上期	⇒	25/3下期見込
➤ アミューズメント：需要の波が大きい下期横ばい見通し	⇒	35億円	⇒	35億円	⇒	36億円
➤ 医療・ヘルスケア：市場は回復基調で、新製品も強化	⇒	10億円	⇒	15億円	⇒	15億円
	⇒	3.8億円	⇒	4.4億円	⇒	4.4億円

製品別売上高 - 中間期比較

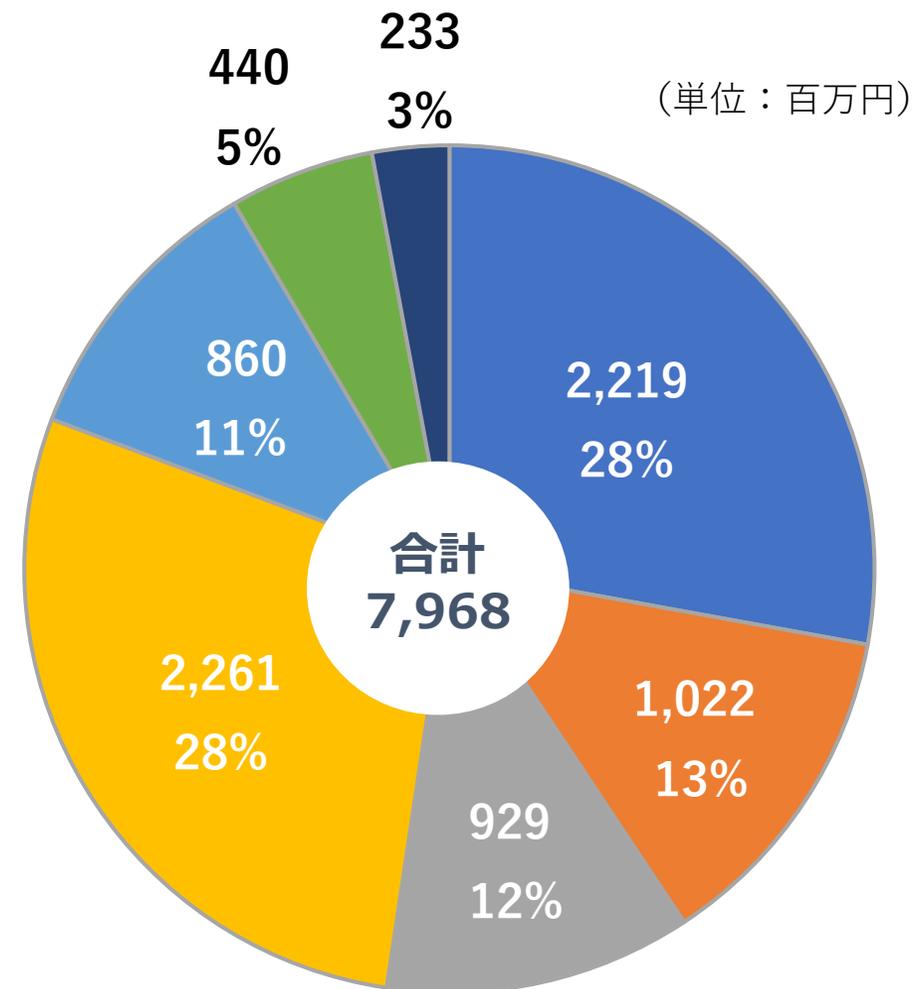
24/3期中間期

25/3期中間期



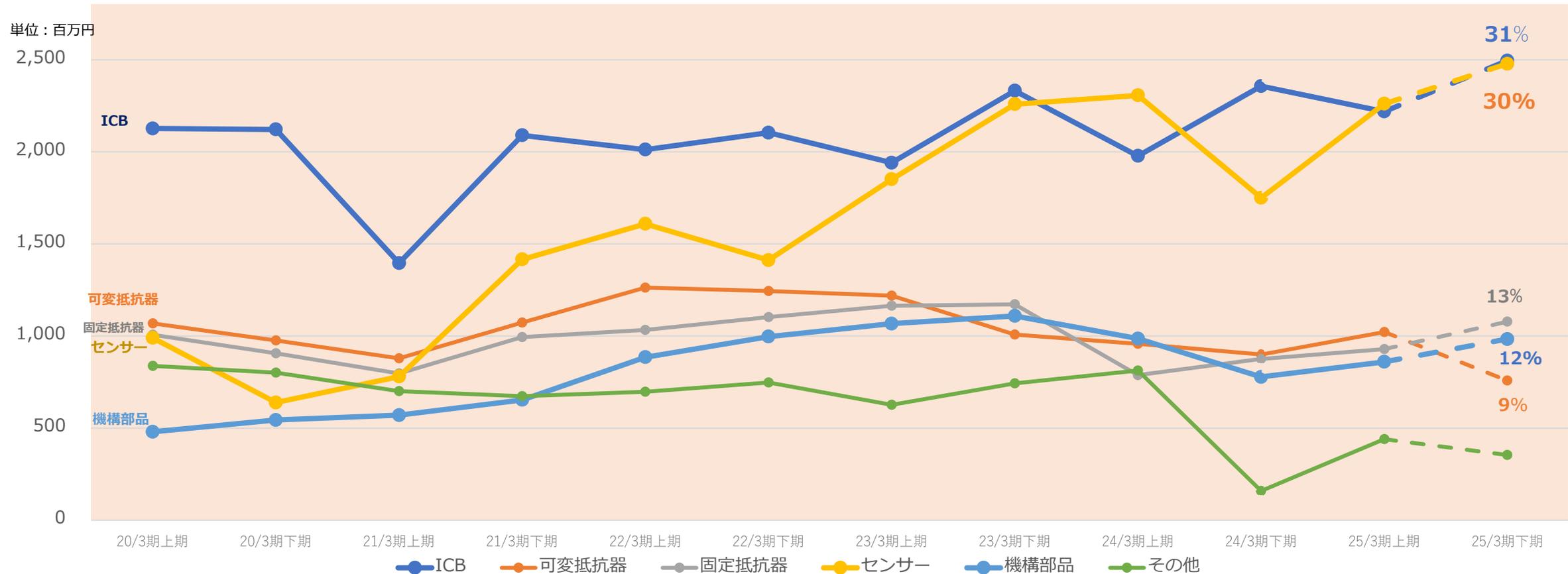
(単位：百万円)

- 前面操作ブロック (ICB)
- 可変抵抗器
- 固定抵抗器
- センサー
- 機構部品
- その他電子部品
- その他事業



(単位：百万円)

製品別売上高 - 半期毎推移



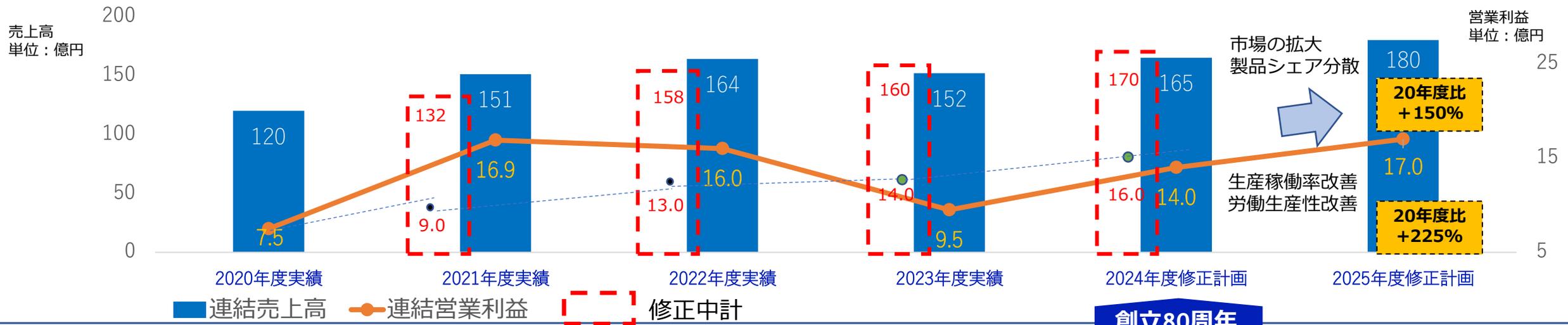
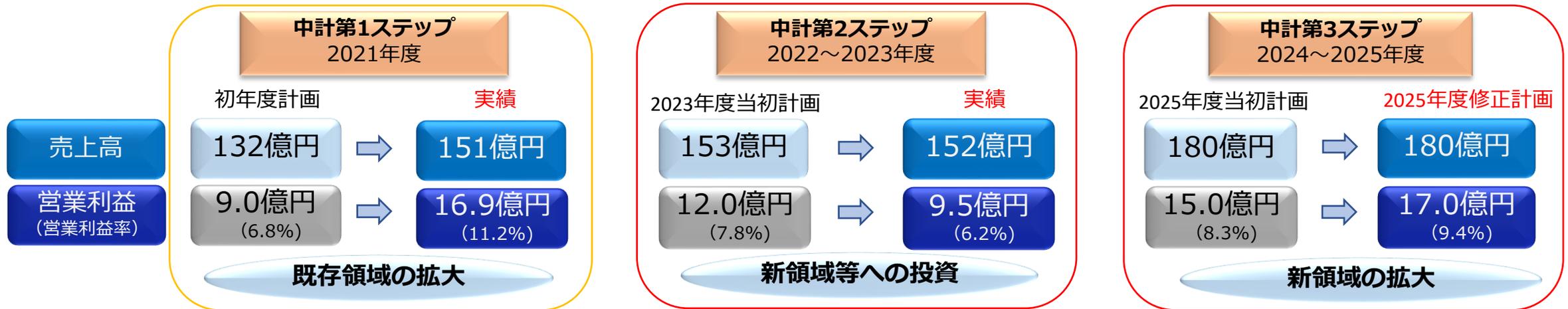
➤ センサー：主力商品化（増収基盤の柱）	⇒ 24/3下期	⇒ 25/3上期	⇒ 25/3下期見込
➤ ICB：AV機器関連の売上増加により復調	⇒ 17.5億円	⇒ 22.6億円	⇒ 24.7億円
➤ 固定抵抗器、機構部品が回復基調	⇒ 23.5億円	⇒ 22.1億円	⇒ 24.9億円
	⇒ 16.5億円	⇒ 17.8億円	⇒ 20.6億円

中期経営計画の進捗と取り組み①

- ▶ 中期経営計画事業目標（修正版中期経営計画）
- ▶ 中期経営計画概要分析（修正版中期経営計画達成率）
- ▶ キャッシュアロケーションと投資等実績と計画
- ▶ 主な経営指標の推移と株主還元

中期経営計画事業目標（修正版中期経営計画）

修正中計の目標：中期計画を3段階に分け、段階毎の売上高・営業利益の目標値を再設定

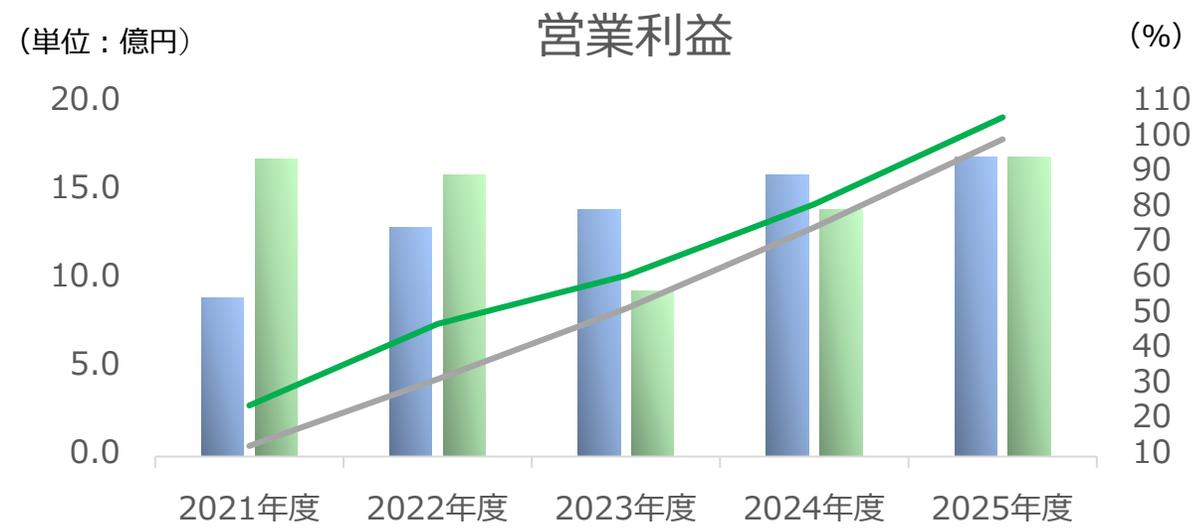
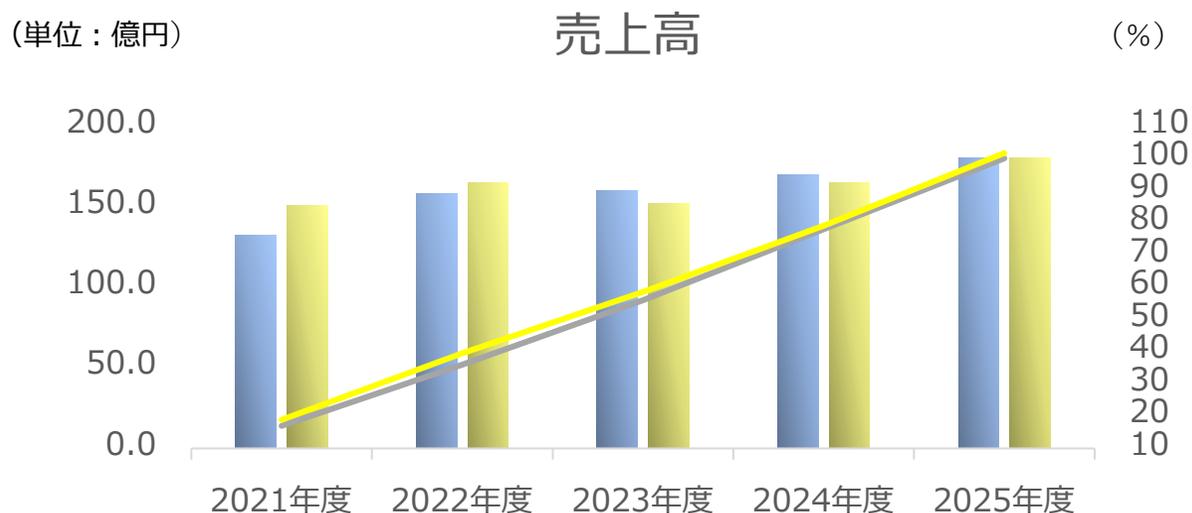


創立80周年

中期経営計画概要分析（修正版中期経営計画達成率）

修正中計に対する実績の概要分析：

- ① 2021年度と2022年度はコロナ禍における特定市場の需要が旺盛であった
- ② 2023年度後半から2024年度前半は特定市場の需要が低迷
- ③ 中計最終年度である2025年度の計画達成をもって5か年計画達成となり、これに向けて施策を検討



■ 計画値 ■ 実績値 — 計画値累計進捗率 — 実績値累計進捗率

■ 計画値 ■ 実績値 — 計画値累計進捗率 — 実績値累計進捗率

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
計画値累計進捗率	17%	36%	56%	78%	100%
実績値累計進捗率	19%	39%	59%	79%	102%

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
計画値累計進捗率	13%	32%	52%	75%	100%
実績値累計進捗率	24%	48%	61%	82%	106%

キャッシュアロケーション – 投資等実績と計画

- 中計第2ステップ：資本効率・株主還元向上を目的に、24/3期期中に自己株式の消却と取得(5億円)を実施
- 中計第3ステップ：BCP・ESGを念頭においた工場増設等の追加投資を軸に展開
資産の有効活用を踏まえ、人財育成・研究開発力の向上に資する新本社の建替え開始
- 中計全般：出資・M&A等は随時検討し、主に新領域の拡大に繋がる投資を模索

(単位：億円)	中計 第1ステップ	中計 第2ステップ		中計 第3ステップ			次期中計以降
	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 計画	2024年度 上期実績	2025年度 計画	
1. 設備投資 (売上高設備投資率)	6.0 (4.0%)	8.6 (5.3%)	5.8 (3.8%)	14.0 (8.6%)	4.4 (5.5%)		インフラ投資だけでなく研究 開発向け投資も強化
2. 研究開発費 (売上高研究開発費率)	4.8 (3.2%)	4.9 (3.0%)	5.4 (3.6%)	6.0 (3.7%)	2.5 (3.2%)		研究開発強化による費用増加
3. 配当金・自己株	6.1	7.0	12.4	11.1	4.1		
4. 出資・M&A等	2.0	—	—	—	—		随時検討
合計	18.9	20.5	23.6	31.1	10.3		
研究開発費を除いた営業CF	22.6	21.2	34.6	20.0	3.8		

24年上期の投資計画進捗は概ね予定通り、ただし、下期計画の投資は不透明な部分がある
研究開発費は新製品等の試作品売上が影響し、金額進捗は遅れている

主な経営指標の推移と株主還元

「営業収益」⇒「適切な投資」 「株主への安定的な利益還元」 「社員への還元」
 中期第3ステップ予想平均 **ROE : 5.4% ・ ROIC : 4.8%** → **ROE : 8%以上を目指すべく更なる改善が必要**

連結ベース	過年度平均 2018年度 ～ 2020年度	中計第1ス テッ	中計第2ステップ			中計第3ステップ		次期中計以降
		2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 計画	2025年度 計画		
営業利益 (億円)	7.9	16.9	16.0	9.4	14.0	17.0	営業利益率 10%以上	
株主資本(億円)	204	215.5	223.0	225.2	228.9	228.9		
配当金 (円)	47	60	60	70	100	60以上		
自己株式取得 (億円)	-	-	-	5.0	3.0	-		
ROE(%)	2.5	6.8	5.7	5.3	5.6	5.2	8.0%以上	
ROIC(%)	2.6	5.4	5.0	2.9	4.3	5.2		
期末時点PBR (倍)	0.48	0.59	0.59	0.67	1.02	1.0以上	1.0以上	
DOE (%)	2.2	2.7	2.6	2.8	4.2	2.5以上		
配当性向 (%)	51.8	37.1	42.4	49.6	63.5	47.5以上		
総還元性向 (%)	51.8	37.1	42.4	86.3	83.5	47.5以上		

※ 2024年度、2025年度のROE、ROICの計算は、2024年度2Qの株主資本と配当総額試算情報を使用 なお、中計での2025年度のROEは5.5%、ROICは4.7%
 2024年度のPBRは2024年12月4日の倍率を記載

中期経営計画の進捗と取り組み②

- ▶ 研究開発の取り組み
- ▶ サステナビリティへの対応と取り組み（人財関係）
- ▶ 新本社・研究開発棟建設計画の進捗
- ▶ IR戦略

研究開発の取り組み

1. 生体電極を使った、SleepTeck分野への応用
2. 生体電極用ゲルの研究
3. Health Tech分野に向けたPOCT
4. (株)イムノセンス様と共同開発中のPOCT
5. 弊社の強みスクリーン印刷でPOCTを制作

研究開発の取り組み - 生体電極



- 心電図～筋電測定用の生体電極から、さらに微弱な信号の脳波測定用電極へと進化し、SleepTech分野に貢献しています。
- PSG検査への応用(睡眠時無呼吸症候群治療用)



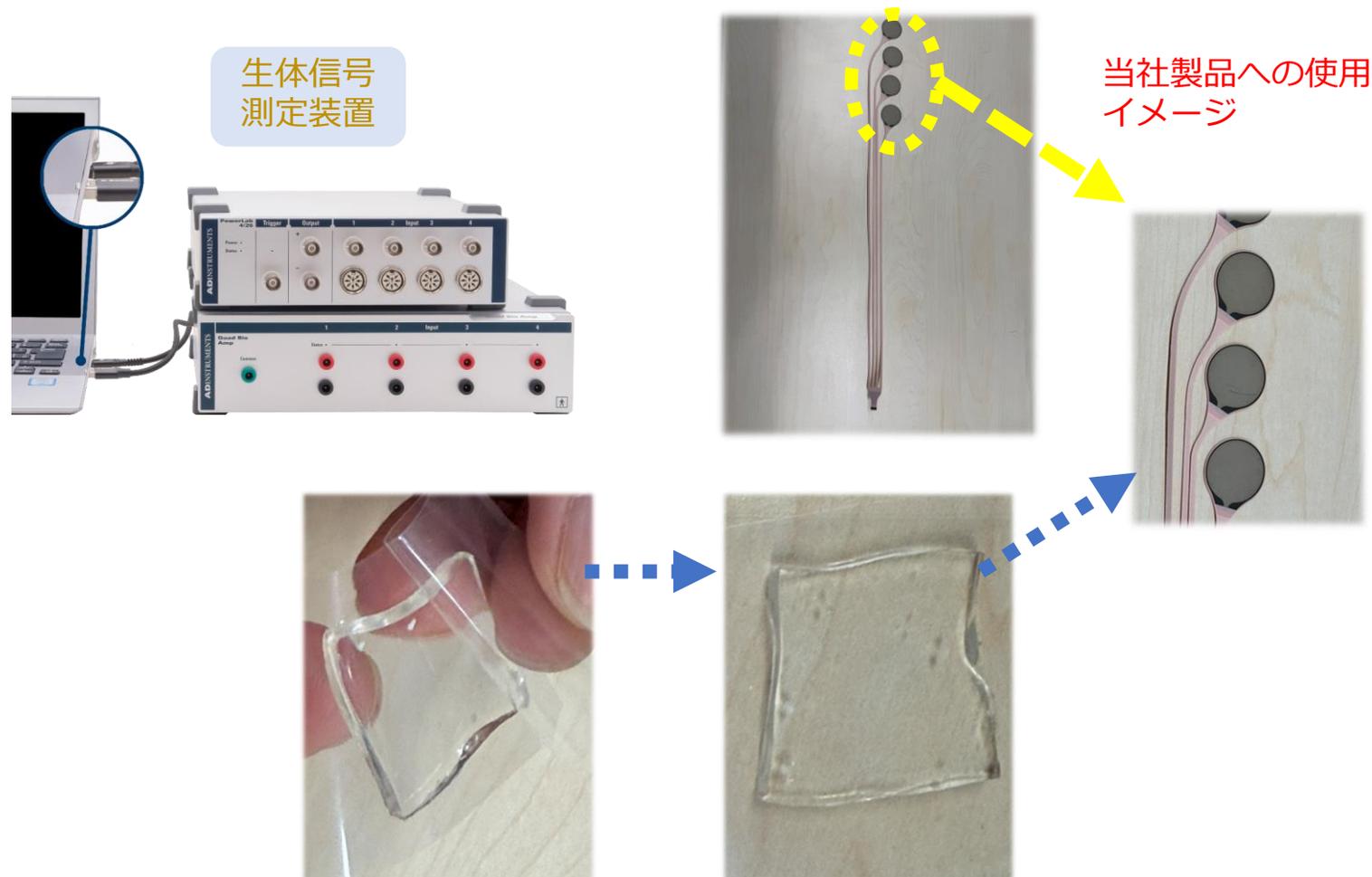
電極用インクの開発 ~ 高機能ゲルの開発

研究開発の取り組み – 高機能ゲルの共同開発

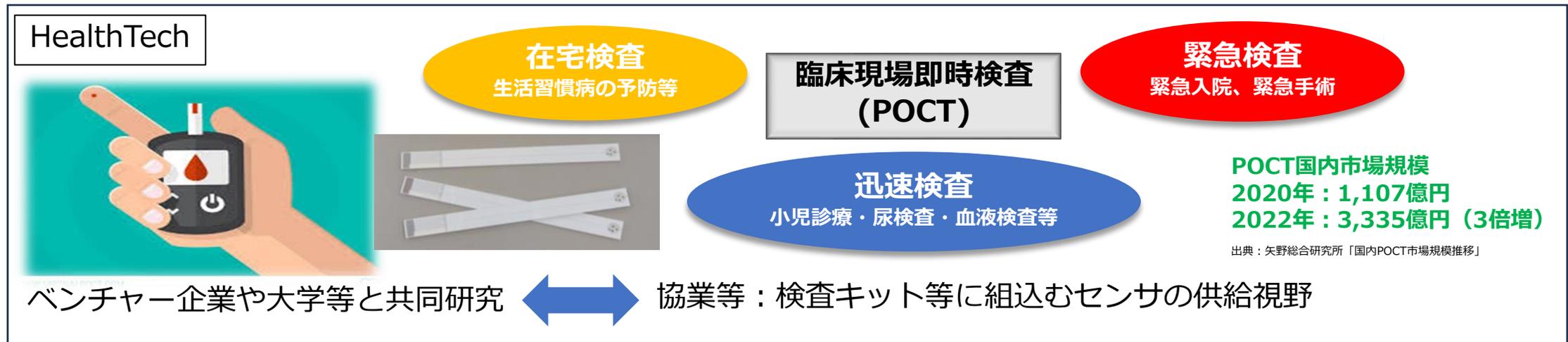
取組事例：汗や入浴など、水のある環境でも接着力が低下しない機能性の導電ゲルを東北大学と一緒に共同研究

開発目標

- 生物の持つ機能を活用し、機能発現を目指す
- 装着感の向上を目指す
- ゲルを用いることでの製品における部品点数削減
- 内製化によるコスト削減
- 弊社生体電極の付加価値向上



研究開発の取り組み – POCTについて



- これから急激な人口減少が進み、急ピッチに進む高齢化社会、いかに健康寿命を延ばすか！
- 臨床現場即時検査 POCT (Point of Care Testing) による迅速な検査の需要が拡大
- いつでもどこでも、簡単にできる検査で、病気になる前に (生活習慣病予防等)

- POCTの市場拡大を見込み、尿・唾液・血液等から、様々な物質の測定に使用が見込まれる、電気化学センサの開発が急務
- 新領域として、ペットビジネスも模索中

研究開発の取り組み – ヘルスケア分野の取り組み事例

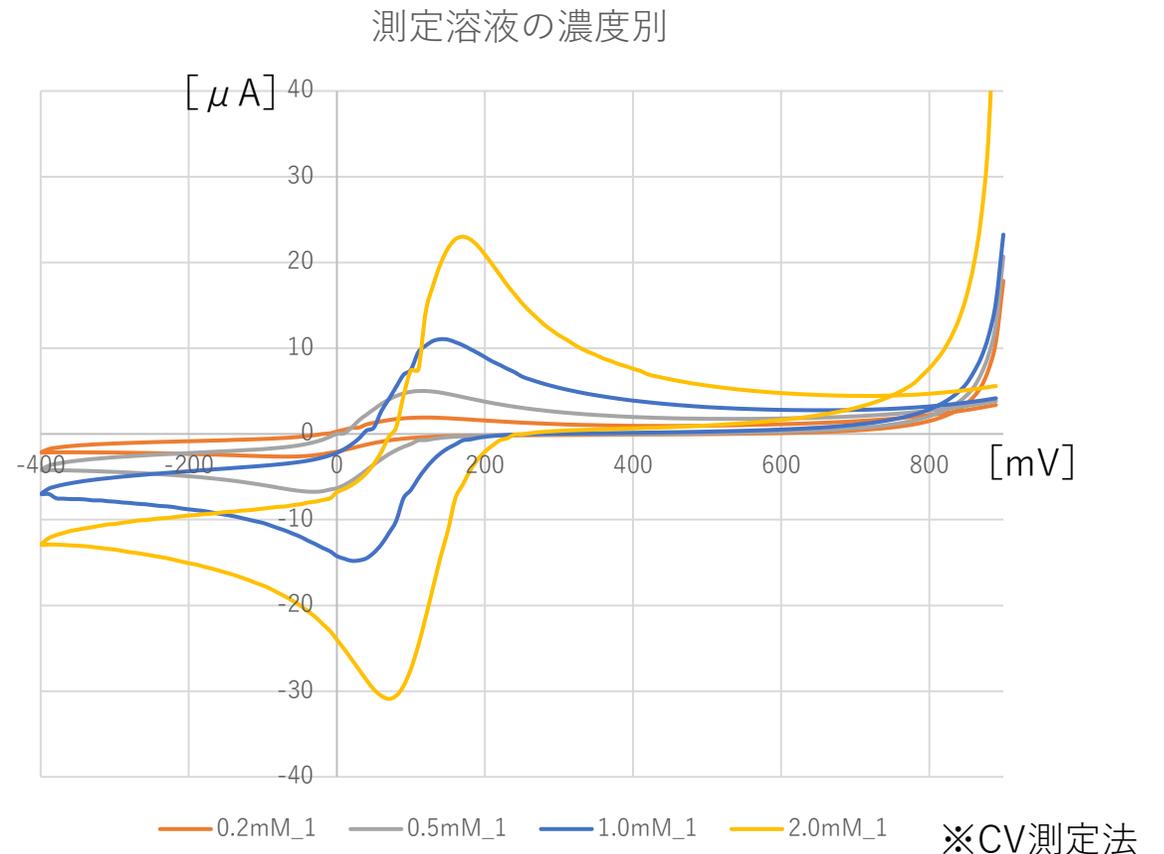
- ◆株式会社イムノセンス様とのPOCT機器、及び電気化学センサの開発コラボレーション中

株式会社イムノセンスは、大阪大学発のベンチャー企業で、2018年に設立。独自技術「GLEIA（Gold-Linked Electrochemical Immunoassay）」を活用した高感度な免疫センサデバイスを開発しています。



研究開発の取り組み－印刷技術を活用したPOCTの開発

取組事例：弊社の強みであるスクリーン印刷を活用した電気化学デバイスの開発を大学や研究機関と共同で進めており、血液・唾液・尿などから診断できるようにカーボンや銀電極等をスクリーン印刷で形成したPOCT用電気化学センサです



サステナビリティへの取り組み

－ 人財関係 －

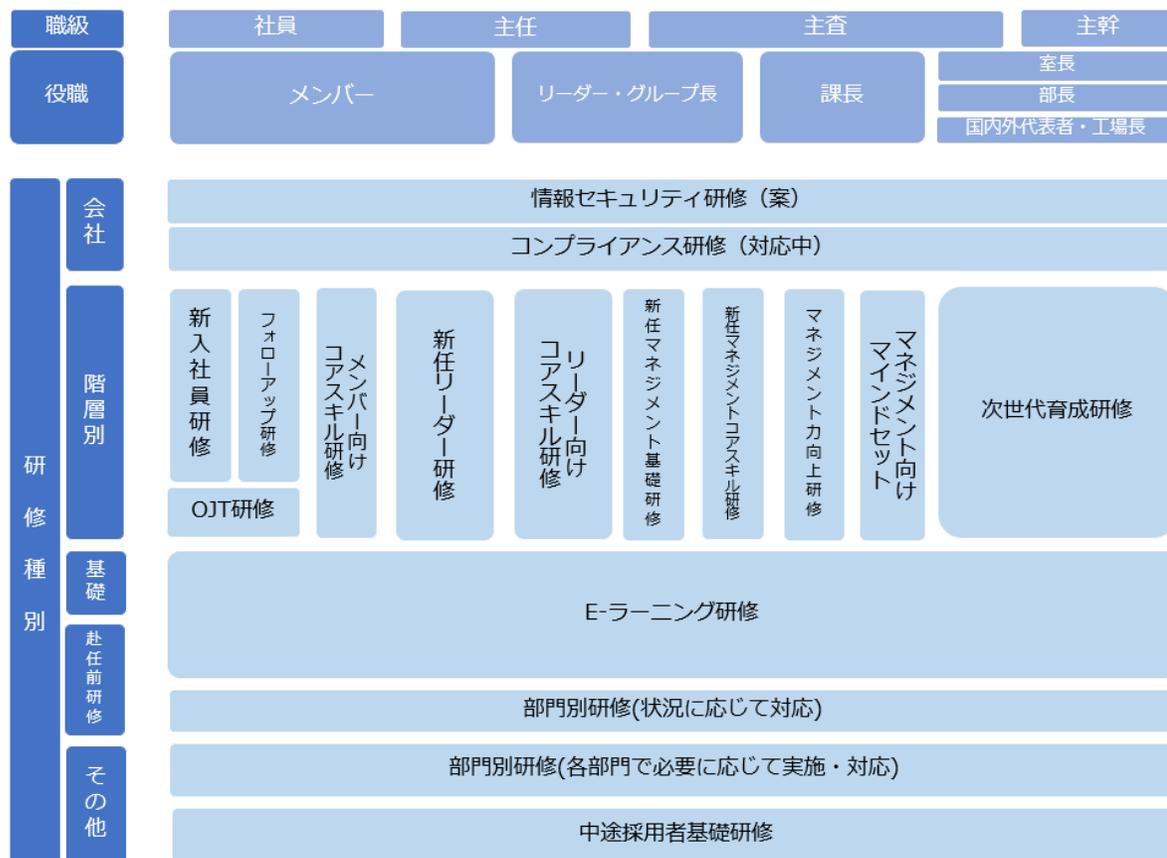
目的：会社が置かれている経営状況や弊社製品への意識向上を図り、仕事に対し、積極的考え、行動できる人財を育て、経営基盤を強化を図る

取り組み事例

- 株式報酬を役員だけでなく、従業員へも自社の株式を給付するインセンティブプラン「株式給付信託（J-ESOP）」を導入し、会社の経営状態や株価などをより意識してもらう
- 既存の製品に囚われない製品アイデアの募集を行い、優秀な内容にはインセンティブを与えた
このイベントを通じて、弊社の製品について、より深く意識してもらえた事に加え、優秀なアイデアのうち、実現可能なものについては、製品化を検討している

サステナビリティへの取り組み – 人財開発の強化

目的：人的投資の観点から人財への投資を積極的に行う事で、
当社の人財の質の底上げを図り、強い組織を作っていく



取り組み事例

【次世代育成研修(経営幹部研修)】

- 選抜式の次世代育成研修を毎年度実施
- 将来の経営を担う人財の育成を図るために実施
- 当社が抱える課題に対して、課題解決・経営視座を意識した研修

※研修全体像：イメージ

サステナビリティへの取組み – 人財採用力の強化

目的：日本における人口減少に対応するため、人的資本に資する人財を継続的に確保する目的で、様々な採用施策を実施

取組み事例

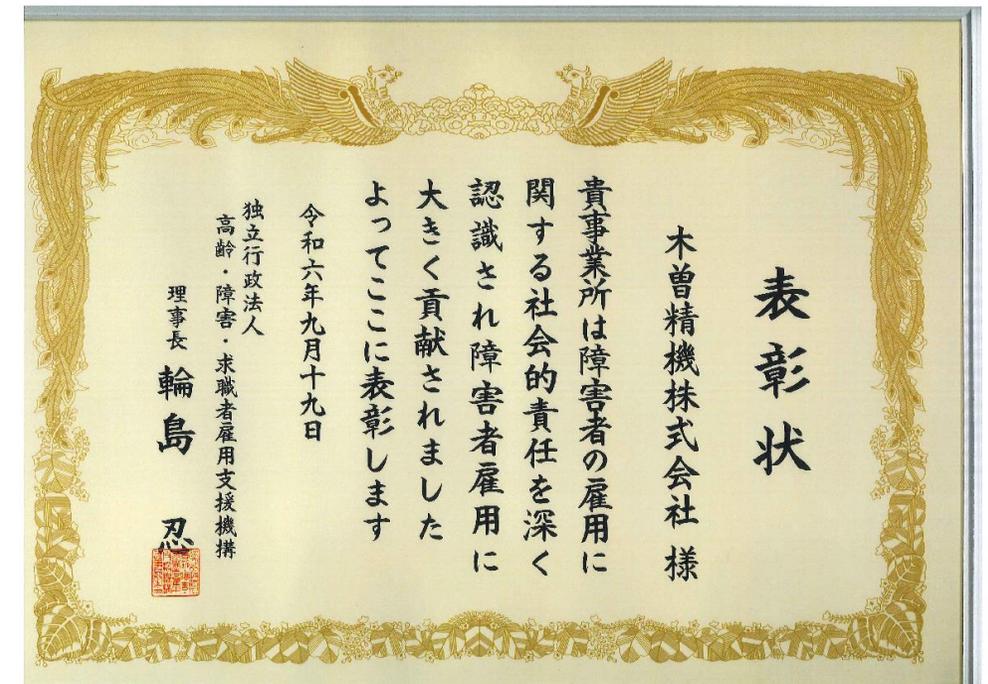
- 求人媒体の多様化：新卒採用における主要なトレンドを掴み、当社に訴求する学生に向けた媒体を展開し一定の新卒採用人数を確保
- ブランド力の向上：採用ブランディングのため、採用HPを立ち上げ予定
- インターンシップ:理系向けに続き、営業系のインターンシップ(1DAY仕事体験)を導入

サステナビリティへの取組み – 障害者雇用

取組み：弊社関係会社である木曾精機（株）にて、障害者も積極的に採用
また、障害者がストレスなく働ける環境づくりを行ってきた

現在までの状況

- 現在13名(雇用率15%超え)の障害者（身体、精神、知性、発達障害）がそれぞれの職場で活躍
- 2021年には、障害者雇用優良事業所の長野県知事表彰
- 本年9月に開催された障害者雇用フォーラムにて厚生労働省（管轄） 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構の理事長表彰（長野県内では1社のみ）



新本社・研究開発棟建設計画の進捗

本社・研究開発棟建設計画①

新たなビルの設計思想「サステナビリティを体現する本社」

● 戦力増強×人財投資

「研究開発機能+本社機能のコラボレーション」

- ・ 知財・技術を集結させた開発の拠点
- ・ 未来のNOBLEグループへの人財育成の拠点

● 業務効率化×働く環境

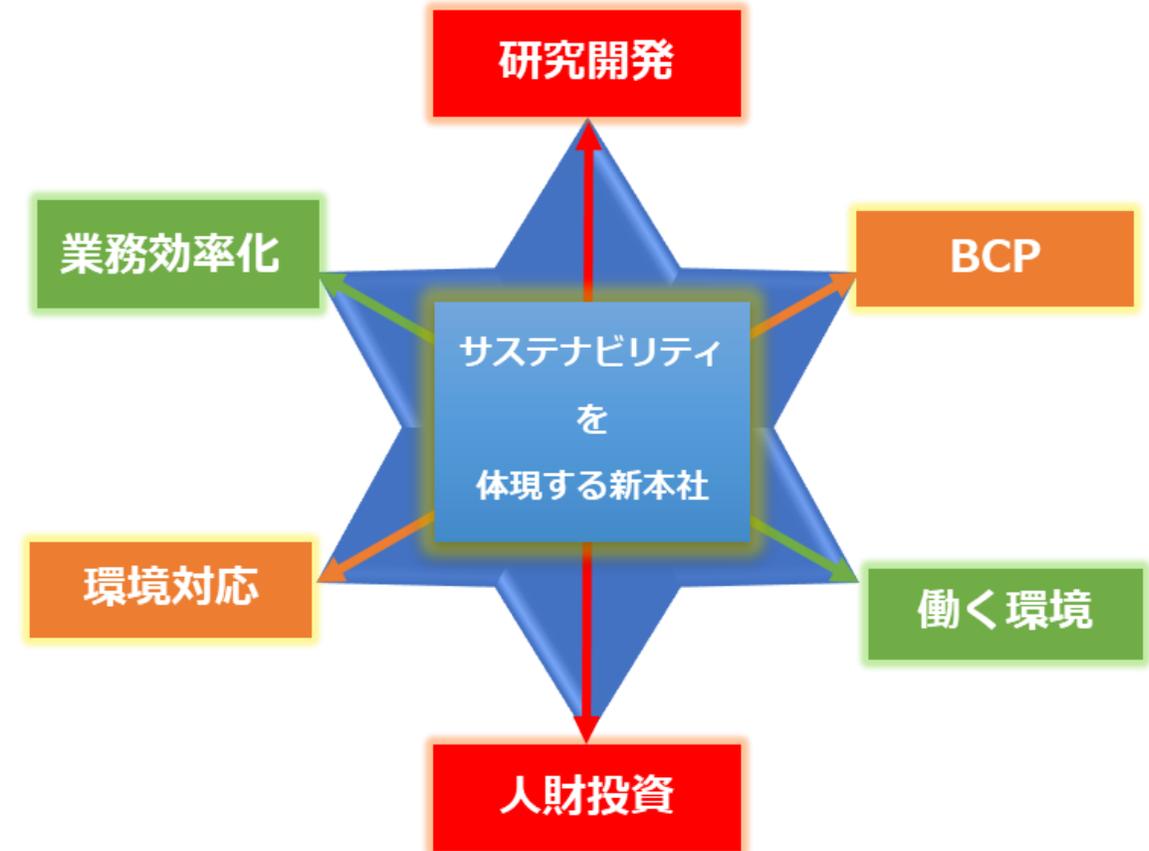
「進化と深化と変化のMIX」

- ・ 本社建物11棟⇒1棟による効率的な導線の確保
- ・ 快適・快活・快コミュな職場環境の実現

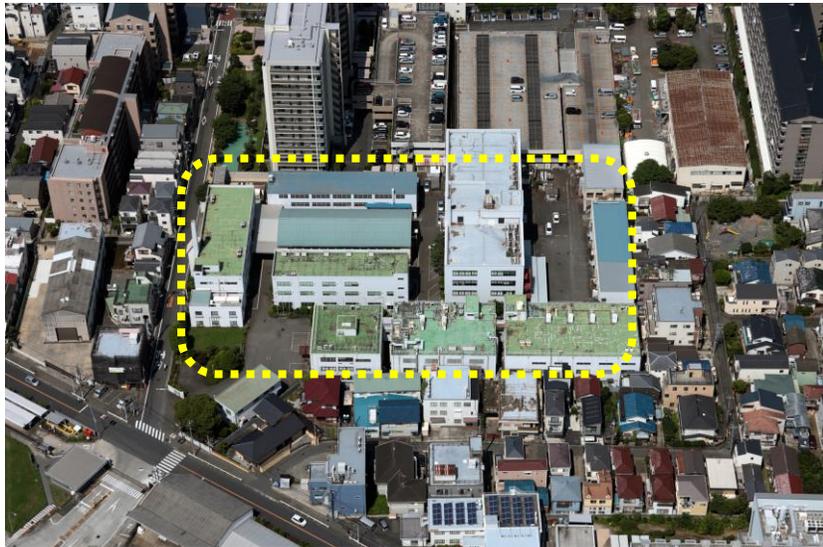
● 環境対応×BCP

「企業と環境の共存」

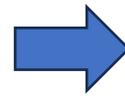
- ・ 省エネ・緑地確保による脱炭素社会への加速
- ・ 防災（自然災害）・防サイ（サイバー攻撃）の拠点



新たなビルの設計思想「サステナビリティを体現する本社」



航空写真より



新本社外観イメージ

本社・研究開発棟建設計画③

新たなビルの設計思想「サステナビリティを体現する本社」

所在地	: 川崎市中原区荻宿 4 5 - 1
竣工予定年月	: 2027年度秋頃（新本社ビル完成）
建築用途	: 研究開発機能と本社機能の複合施設
規模	: 建築面積約2,000㎡
構造	: 鉄骨造4階建
延床面積	: 約8,200㎡
主な性能	: 省エネ対応 ZEB Ready相当を目標とする※1 耐震基準 保有水平耐力1.25以上※2

※1.基準一次エネルギー消費量から50%以上の一次エネルギー消費量削減

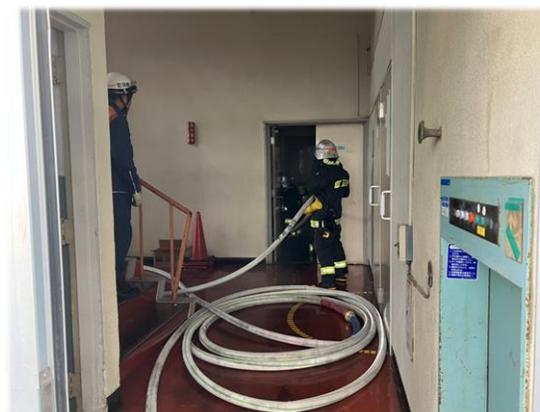
※2.震度7クラスの地震が発生した場合においても人命の安全が確保でき、
補修を行うことで継続して建物を使用することが可能な耐震性能

移転・建替えスケジュール

- ・第1次解体工事に伴う移転（敷地内） : 2024年夏 ⇒ [敷地内移転完了](#)
- ・第1次解体工事・本社新築工事 : 2024年秋～2027年夏 ⇒ [第1次解体工事開始\(建設予定地\)](#)
- ・第2次解体工事 : 2027年度～2028年度

本社・研究開発棟建設計画④

第1次解体工事前：地元中原消防署へ訓練場所として提供



第1次解体工事の状況



IR戦略

IR戦略

IR活動内容	頻度	対応時期	実施/予定
中期経営計画開示	5か年計画	2021年5月11日開示 2022年5月11日修正版開示	実施・継続
中期経営計画英文開示	5か年計画	2022年5月11日より実施	実施・継続
決算説明資料開示	毎四半期	2021年3月期末決算より実施	実施・継続
決算説明資料英文開示	毎四半期	2021年3月期末決算より実施	実施・継続
新聞・業界紙・IR専門誌等への広告掲載など	適時	JR品川駅・新横浜駅にサインボードとして広告を掲示 日経新聞、電波新聞等にインタビュー記事掲載 ダイヤモンドZi24年10月号掲載	実施・継続
各種展示会出展など	適時	Medtec Japan2024、FBCSASEAN2024、Taiwan Innotech Expo2024等国内外の展示会に出展	実施・継続
アナリスト向け決算説明会開催	毎半期	毎年、6月・12月頃	実施・継続
アナリスト向けIRミーティング	随時		実施・継続
個人投資家向けIR戦略	随時	個人投資家向け説明会2022年より実施(24年9月開催) 野村IR会員向けに「トップの素顔」「IRレポート」掲示	実施・継続
新スローガン作成	適時	創業80周年に向けて企業スローガンを策定	実施・継続
新製品・資本提携等発表	適時	2021年に(株)S'UIMINと資本提携	実施・継続
機関投資家向けSR面談	適時	2024年1月に実施(25年1月も実施予定)	実施・継続
80周年誌刊行	-	2024年12月ダイヤモンド・ビジネス企画社より発刊予定	予定

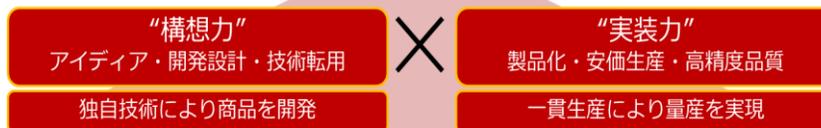
✓ 上表に記載事項は、実施済み、継続予定

さあ、NOBLEと実現しよう。

Together, we make good sense.



「NOBLE WAY」



トップインタビュー

創立80周年の記念配当30円を含む1株当たり100円の配当を実施します

帝国通信工業 代表取締役社長 羽生満寿夫 (はにゅうますお)

当社が提供する電子部品は、大半がお客さまの製品の中に含まれます。そのため、皆さまの目に触れる機会ほとんどなく、当社の社員も「自分たちは緑の下の力持ち」という認識が強いようです。

そんな社員の意識を変え、「自分たちが主役だ」という自覚を持つため、23年7月に「さあ、NOBLEと実現しよう。」という新しいスローガンを掲げました。全社一丸となって、医療・ヘルスケアなど新たな領域へと果敢に挑みます。

創立80周年を記念して、25年3月期には記念配当30円を含む1株当たり年間100円の配当を実施します。今後も年間60円以上を目安に安定継続配当を目指しますので、ご期待ください。

ダイヤモンドZi 2024年10月号にて掲載

IRレポート | ABI

2024年に創業80周年
可変抵抗器のNOBLEは
初の中計で新生NOBLEに進化へ

2023年10月12日

6763 帝国通信工業

2023年10月野村IRマガジンにて掲載

**英文開示義務化への対応
IR活動は継続的に強化**

さあ、NOBLEと実現しよう。

Together, we make good sense.



今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

帝国通信工業株式会社 代表取締役社長 羽生 満寿夫

お問合せ先：帝国通信工業株式会社 経理室
TEL: 044-422-3831
E-Mail: ir-info@ho.noble-j.co.jp